



Botswana Medical Information



2019年8月

【2019年8月報道記事抜粋】

●栄養失調児について

フランシスタウンにあるマセゴクリニックの栄養士、看護師が栄養失調児について述べたところによると、母乳栄養を中止しおかゆなどの食事に移行する生後6ヶ月頃より、急性の栄養失調が出現する。マセゴクリニックでは、毎月800人の子供が定期健診を受けているが、約25人が栄養失調の状態であり、この人数は政府の目標値である3%を上回っている。クリニックでは、早期から栄養について両親へ話し、栄養介入食品である **Tsabana** を渡し、定期的な検診にくるように促している。(5日モニター)

●子宮頸がんの啓蒙

ヒトパピローマウイルス (HPV) 自己検査と子宮頸がん啓発キャンペーンが開催された。ボツワナでは2005年から2012年の間に全国がん登録に1万1,398人が登録されている。子宮頸がんは予防や早期治療が有効ながんであるが、免疫状態が正常でない女性の場合は、4から5倍の頻度で発生する。HPVに感染してからがん化するまで、免疫機能が健全な者は15年から20年かかるのに対し、免疫機能が低下している者は、5年から10年で進行する。またHIV陽性者は、HPVの罹患率が一般人口に比較して高い。(5日モニター)

●新生児死亡率の改善

HIV/AIDSの危機にあった1990年代から2000年代には、新生児死亡率が1000出生に対して58.8だったが、包括的HIVプログラムやヘルスサービスの改善により昨年は29.69であった。(6日デイリーニュース)

●男性がHIV検査を受ける率

サウスイーストサウス地域支部保健チーム (DHMT) の報告によると、4月から6月に271人の妊婦が検査を受けたが、検査を受けたパートナーは96人だった。1月から3月は、307人の妊婦に対して、99人の男性が検査を受けた。男性の検査率が低いことは、HIV伝搬のリスクとなるため、母から子供への感染予防対策 (PMTCT) において、男性のさらなる関与を促す必要がある。

同報告によると、妊婦の98.9%がHIV検査を受けたが、3名が未受検だった。同期間に1名の乳児が生後6週でHIV陽性であった。HIV陽性であった妊婦は、**Treat All** 対策 (HIV治療プログラム) を開始している。緊急避妊薬を含む家族計画へのアクセスの強化が重要である。

(9日デイリーニュース)

文責：高原野草 (在ボツワナ日本大使館医務官)